

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分 品名	原材料名	原産国	含有成分	文庫	症例	適正 使用 措置	感染症(PID)	出典	概要
1057	2008/03/24	71057	化学及血 清療法研 究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人血液凝固 第XIII因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	チクングニヤウ イルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 1895-1906	2005～2006年にレユニオン諸島でアウトブレイクしたチク ングニヤウウイルス(CHIKV)感染は、エンペロブ蛋白遺伝伝 子の変異株(E1-A226V)が関係していた。この変異の、 ネッタイシマカおよびヒトシマカにおけるCHIKV適合性 に対する影響を調べた。その結果、CHIKVのヒトシマ カに対する感染性が有意に増加し、哺乳マウスへの伝播 がより効率的になることが明らかとなった。通常のベク ターであるネッタイシマカがいらない地域でCHIKVが大 流行したのはこの変異が原因と考えられる。
												エボラ出血	CDC 2008年1月8日	CDCとウガンダ保健省は、2007年8月から始まったウガン ダ西部に位置するBundibugyo地区におけるエボラ出血熱 のアウトブレイクを報告した。2008年1月3日までに148人 が罹患し、37人が死亡した。患者検体の遺伝子解析によ り、既知の4つのエボラウイルス株と異なる、新たなウイル ス株である可能性が示唆された。確定には更なる研究が 必要である。
												鳥インフルエン ザ	China View, www.chinaview.cn 2008-01-10	2007年12月に江蘇省南京で発生した52歳男性の鳥イン フルエンザ感染患者は、患者であった息子との濃厚な接 触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められ ていない。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家畜と の接触がないため、息子の感染源は明らかになっていな い。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は 12月3日に発症したが回復した。ヒト用トリインフルエンザ ワクチンは臨床試験Phase IIの段階にある。
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2008; 358 10.1056/NEJMoa07 3785	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例 が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原 因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎 から得られたRNAを編りしない迅速シーケンシングで解 析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に關係する新規の アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシ ピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルス が検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認さ れた。この方法は病原体発見の強力な手段である。
1058	2008/03/24	71058	化学及血 清療法研 究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人フィブリノ ゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	チクングニヤウ イルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 1895-1906	71057に同じ